

2015年2月9日

報道関係各位

慶應義塾大学 SFC 研究所

W3C と自動車業界がコネクテッドカー向けの新しいウェブ標準に着手

2015年2月3日、W3C(World Wide Web Consortium)は、コネクテッドカーにおけるデータとサービスに対する消費者ニーズが近年ますます増大していることを受けて、ドライバーおよび同乗者に豊かなウェブ体験をもたらすべく、新たに自動車業界とのコラボレーションを開始することを発表しました。この活動ではまず、アプリケーションベンダーに対して、標準的かつより安全な形で車両データにアクセスすることに焦点を置いています。

コネクテッドカー向けウェブの概要

W3C CEO のジェフェリー・ジャフィは、「車の所有者は、ウェブにアクセスすることによって、クルマや周囲の環境に関するリアルタイムの情報を入手したいと思っています。それは気象情報、交通情報、駐車場情報などを含みます。」と述べます。「彼らはまた、携帯機器とのスムーズな連携も望んでいます。クルマ、ユーザのデバイス、ウェブそのもの、そして IoT (モノのインターネット) からやってくる様々なデータを仲介することにおいて、ウェブの能力に叶うプラットフォームは他に存在しません。しかしながら、我々は、ウェブへのアクセスを安全性を損なわないものとするとともに、利用者のプライバシーに関する嗜好を考慮した形で安全な情報アクセスを提供する必要があります。この取り組みに対する自動車業界の支援は、オープン・ウェブ・プラットフォームが、運転をより安全性かつ楽しいものとするに寄与することを支持するサインでもあります。」

2013年2月、自動車メーカー、半導体メーカー、ブラウザメーカー、携帯電話事業者各社が、車両識別、加速とスピード、タイヤ圧、バッテリーの状態、シート位置や外部の天候情報などの車に関わるデータの仕様書草案への取り組みを開始しました。本日正式に発表された「Automotive Working Group」は、そこで作成された草稿仕様をウェブ標準とするべく設立されました。

「コネクティビティが自動車産業を変革させる。」と唱えるのはジャガー・ランドローバー社の Future Infotainment 部長であるマット・ジョーンズ氏です。「私たちは、無線ネットワークを経由したアップデートや高度なダイアグノーシスのような新たな分野への取り組みと同様に、急速に変化し続ける消費者の要望と技術発展の必要性に応える最適な方法はウェブであると確信しています。ウェブ技術を車に活用することで、車で使用されるアプリが市場に提供するスパンを短縮でき、現在の開発チームはより一層の技術革新を可能にするでしょう。」と語りました。

2013年2月設立「Automotive and Web Platform Business Group」に参加し仕様書草案を作成した自動車業界に携わる多くの企業は、BSQUARE、ブラックベリー、コンチネンタル、フォード・モーター、ゼネラルモーターズ、GENIVI アライアンス、DFKI (German Research Center for Artificial Intelligence, KI)、ハーマン、現代自動車、iHeartMedia、インテル、JEITA (一般社団法人 電子情報技術産業協会)、ジャガー・ランドローバー、JARI (日本自動車研究所)、KDDI 株式会社、LG 電子、三菱電気株式会社、Neusoft、ノキア、OpenCar、フランステレコム、パンドラメディア、ポルシェ、サムスン電子、シャープ株式会社、テレノア、TotalFinaElf、ベリサイン、ビステオン、ボーダフォン、フォルクスワーゲンの31社です。

GENIVI アライアンス社長のフィリップ・ジケル氏はこう述べます。「GENIVI アライアンスには、OEM、Tier1、OSV、ミドルウェア、ハードウェア、サービスプロバイダ、半導体メーカーが会員として加盟しており、彼らは自動車産業に関わる幅広い事柄に関心を持っています。彼らを繋ぐものは、車載インフォテイメントに対するオープンなプラットフォームに幅広く適合する共通の規格です。私たちは今回 W3C が発足した、W3C 標準を策定するための取り組みに称賛の意を示します。それは私たちの産業を刷新することに拍車をかけることでもあり、市場に対して提供する革新をより容易にしてくれるからです。」

OpenCar 社 テレマティクス&スタンダード部のディレクターであり、W3C Automotive and Web Platform Business Group と Automotive Working Group 双方の共同議長であるポール・ボイズ氏はこのように話します。「W3C は、Automotive and Web Platform Business Group を通して、OEM や Tier1 のような伝統を持つ自動車企業が、以前は自動車産業に全く関わりのなかったコンテンツや技術を持つ企業と共に、ユースケースや要求項目、仕様書草案の議論をオープンに行うという共同作業の場を提供しました。これは様々な利害関係者同士が集うことを実現し、素晴らしいフォーラムを作り上げたことでもあるのです。Automotive Working Group の発足は、この異分野におけるコラボレーションが、コネクテッドカーのより急速な革新とこの業界全体に恩恵をもたらす標準につながる道となつてゆくでしょう。」

2年前に発足した Automotive and Web Platform Business Group は、Automotive Working Group の標準化活動と並行して、メディアチューナーや音声インターフェースを含む数多いトピックの要求項目の議論を進めてゆきます。

「W3C は大きな器のように、自動車メーカーとコネクテッドカーエコシステムを包み込んだコネクティビティを現しています。隠された議題はなく、車両のコネクティビティを急速に展開・進歩するためのプラットフォームの実現に注力するのみなのです。それは車両と歩行者、デバイスとインフラストラクチャ間のコネクティビティをより向上させることに繋がり、その結果 W3C の活動は、IoT アプリケーションやサービスが多様に実現することを促進させるでしょう。」これは Global Automotive Practice at Strategy Analytics のアソシエイト・ディレクターであるロジャー・C・ランクトット氏が寄せた言葉です。

2015年2月、W3C は WoT (Web of Things) の活動も開始しました。この活動で、タグやセンサー、そしてアクチュエーターに基づいた製品やサービス、またウェブ上の多くのデータのためのオープンな市場の発展を加速してゆきます。

World Wide Web Consortium (W3C) について

World Wide Web Consortium (W3C) は、Web 標準化の開発を目的とし、会員組織、フルタイムスタッフ、および公的団体が連携する国際的なコンソーシアムです。W3C は、Web の長期的な成長の確保を目的とした Web 標準およびガイドラインの作成を通じ、使命に尽力しています。Open Web Platform は、現在、我々が最も注力している分野です。390 を超える組織が、本コンソーシアムの会員として参加しています。W3C は、米国 MIT Computer Science and Artificial Intelligence Laboratory (MIT CSAIL: マサチューセッツ工科大学計算機科学人工知能研究所)、フランス European Research Consortium for Informatics and Mathematics (ERCIM: 欧州情報処理数学研究コンソーシアム)、および日本の慶應義塾大学により共同運営されており、各国の W3C オフィス各国に W3C オフィスを設置しています。詳細については、<http://www.w3.org/>をご覧ください。

お問い合わせ先:

慶應義塾大学 SFC 研究所 W3C 事務局

TEL 03-3516-2504 FAX 03-3516-0617

E-mail: keio-contact@w3.org

配信元:

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室学術研究支援担当

TEL 0466-49-3436

E-mail: kri-pr@sfc.keio.ac.jp